

多数のご参加ありがとうございました！ FORUM2010

平成 22 年 3 月 20 日に、「学校力」を高める実践的研究から学ぼう をテーマに「大阪市教育センターフォーラム 2010」を開催しました。当日は、1200 名を超える皆さまにご参加をいただきました。

全体会

全体会 1 では、当センターの谷村研究官、高見所員、石井所員、恵美所員より、「授業評価シート」を活かした「共同 P D C A」の内容・方法について研究報告をしました。小学校国語、算数、中学校外国語（英語）において、「活用」を図る授業デザインに関する評価規準及び評価基準を明示した「授業評価シート」によって授業をふり返り、具体的な指導法についてさまざまなアイデアを出しあって授業改善を図っていった様子や、いずれの実践においても児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成できたという成果について報告しました。この内容の詳細については、4 月に各学校園に送付します「研究紀要 190 号」にまとめられていますので、参考にしてください。

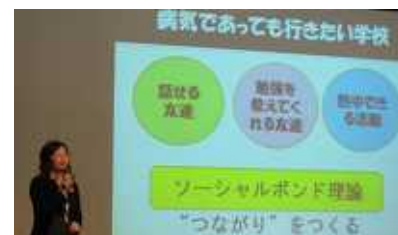


また、今年度、本市で取り組んでいる「授業力アップサポート事業」について、「校内研修を活性化させ、教員の授業力アップをめざす」というテーマで発表しました。大阪教育大学の木原俊行教授をコーディネーターに、本市で先進的に取り組んでいる敷津小学校や大宮中学校の実践報告を中心にパネルディスカッション形式で進めました。パネリストからは、視点を明確にした研究授業や、付箋を使ったワークショップ型の協議会など、校内研修の深化・充実をめざす取り組み等が紹介されました。他にも、年次研修を活用し、グループ研修を取り入れた年間研修計画や、全学年公開授業をし、自らの指導にどう生かせるかを分科会・全体会などで協議するという研究授業の持ち方の工夫などが紹介されました。

全体会

全体会 では、学力を支える学習集団づくりと題して、教育センターの指導主事が、加美東小学校、長池小学校、淡路中学校の先生方とリレー方式で交代しながら舞台上で対談を行いました。授業における協同学習やグループ学習、朝の会や昼の時間等を活用したなかまのつながりづくり、スキル教育、ピア・サポート活動、これらの取り

組みを通して、一人一人の子どもたちが確実に成長している姿を、先生方の語りと映像を通じて実感することができた全体会になりました。指導助言では、広島予防的人間関係推進プログラムの紹介とともに、教職員の協同性を高め、学校全体でこれらの取り組みを実施することの意義を示唆していただきました。参加された先生からは、「明日から生徒に接するにあたって、あらためて多くの事を考えるきっかけになりました」との声をいただきました。



英語教育の進め方

「逆向き設計」を取り入れた4技能の統合的な活用について、中学校の4つの事例をもとに研究報告しました。「英語を使った活動のポイントがよくわかった」等の感想をいただきました。

小中連携では、4小1中の連携の実践報告をもとに、成功の鍵となった管理職間の連携体制、指導者間ネットワークの構築、共同の教材作成等を報告し、国際交流を視野に入れた方向性を協議し



ました。吉田教授からは、英語を実際に使う相手との交流の重要性が指摘され、多くの先生方が熱心に聴き入っていました。

小学校国語科・算数科における授業づくりのポイント

国語科では、思考力・判断力・表現力を育てるための「話す・聞く」「読む」に関する指導のポイント及び「伝統的な言語文化」の教材研究や授業のポイントについての内容を、また算数科では、4段階の学習過程をふまえた授業の組み立て方や、算数的活動の意義や工夫点についての内容を、それぞれ具体的な事例をもとに深めることができました。



学校園における壁面緑化を題材にした環境教育に関する研究

壁面緑化を題材にした環境教育は、自然体験の保障、生命尊重の態度の育成、生態系概念の育成、環境保全への行動化などの教育効果があることを、幼稚園、小学校、中学校における実践事例を通して報告しました。石川准教授からは「壁面緑化は、ヒトと生き物とのつながりを体験したり、環境を自分たちで工夫してよくしたりする事例となる」などのコメントをいただきました。会場から「壁面緑化に取り組むにあたってとても参考になった」という感想があげられました。



してよくしたりする事例となる」などのコメントをいただきました。会場から「壁面緑化に取り組むにあたってとても参考になった」という感想があげられました。

民族的・文化的背景の異なる子どもの自尊感情

子どもが心理的葛藤を行き場のない心の隅に仕舞い込まないように、レジリエンスとソーシャル・サポートが大切なことを報告しました。また、研究協力委員からも民族学級で学ぶ子どもの状況について報告いただきました。参加者から「綴方に取り組むようになって、子どもが自分のことを表現するようになった」「民族学級や名前のことで保護者と何時間も話し合ったことがあり、子どもに寄せる保護者や祖父母の思いを知ることができた」などの意見がありました。



「Web標準」によるWebサイトの作成

「今まで何気なく見たり、作ったりしていたWebページに対する考え方が変わりました」という感想から、全ての人々が利用できるWebページ作りのポイントや「情報教育」の校種間連携について討議を深めることができました。



幼稚園教育における5歳児を中心とした特別支援教育の取り組み

申込を超える60名の参加がありました。国立特別支援教育総合研究所から出された「発達障害支援ブランドデザインの提案」を基に、大阪市立幼稚園の特別支援教育の取組について調査し、その結果を報告しました。栢木教授からは、市内幼稚園の取組の質の高さ、幼児期からの気付きや幼小連携の重要性についてご助言いただきました。



ピア・サポート活動

研究協力員の加美南部小学校の岡本先生が、アンケート調査を用いた、子どもたちをとりまく“対立やもめごと”の現状分析とともに、子どもたちが自分たちの力で解決していくプログラムづくりに取り組まれ様子を、映像を用いて報告していただきました。他者の意見や考えを、いかに心を使って聴くことができるかが重要なポイントであることを参加者とともに共有することができました。最後になかまに支えられて、笑顔である自分になったという一人の児童の作文を紹介していただき、ピア・サポート活動の大切さを共有することができました。

